

中小企業などへの支援

まちの賑わいや地域経済の活性化には、地域で事業を営む人や働く人の力が欠かせません。本市では、魅力的な商店づくりや快適な職場環境の整備などを後押しするため、多岐にわたる中小企業などの支援策を展開しています。今回は、市の制度を利用して事業の発展に役立てている方々と、高崎で働き、暮らす魅力についてお話を伺います。

中小企業の快適な職場環境づくりを支援

市長 高崎の事業所の99%は中小企業で、働く人の約80%が中小企業に勤めています。私の目標は、ビジネスを盛んにして、それを基礎に福祉や子育て環境を良くすることです。そのためにはさまざまな支援が必要だと考え、全国で高崎市だけの制度を作ってきました。若手経営者と話す機会があって「ものづくりの現場には冷房がない所が多く大変だ」と話しているのを聞き調べてみたら、約6割の現場に冷房が無いことが分かりました。なんとかしなくてはと考え、職場環境改善の補助制度を作りました。高橋さんの会社では、実際に制度を利用してみていかがでしたか。

高橋哲 弊社は工場が広く屋根も高いため、これまで工場全体を冷やすことができませんでした。各自が空調服を着たりスポットクーラーを使用したりしていましたが、今回の補助金を活用して広範囲に冷気を飛ばす大型クーラーを4台導入させていただきました。

市長 ある会社では、暑さで母国に帰りがっていた外国人の青年が、この補助金で冷房を入れた途端に「帰らない」と熱心に働き続けたというケースもありました。働く環境を良くすることはビジネスの力になります。導入後、従業員の皆さんの反応はどうか。

高橋哲 従業員さんも皆大喜びしています。仕事柄、工場内を移動しながら作業することが多いのですが、工場の中全体が涼くなったので、非常に環境が良くなりました。

市長 良い環境で働かなければ、良いアイデアや知恵も出せませんからね。企業への支援を進めていたところ、今度は農業青年たちから「猛暑の中で働く私たちにも暑さ対策の支援をしてほしい」という声が上がったので、今年度から農業者向けの特別枠を作りました。利波さんは一番暑い盛りの作業はどう対応しているのですか。

利波 これまでは暑い時間帯はなるべく外に出ないようにして対応していました。今回、市の補助金でファン付きベストを購入させていただき、そのおかげで、今までよりも長く



富岡 賢治市長

手厚い中小企業支援で地域の活力を引き出し、福祉や子育てなど暮らしを守る施策へ還元。活気と安心な暮らしが調和するまちづくりを進めている。



たかはし さとる
高橋 哲さん

産業機械製造業の会社を経営。職場環境改善事業補助金を活用し、自社工場に空調機器を導入。従業員が快適に作業できる環境を整備する。



たかはし まなみ
高橋 真美さん

県外の大学に進学後、本市の暮らしやすさや魅力を実感。昨年4月に建設コンサルタント企業にUターン就職した。中小企業就職奨励金を取得。



やない やよい
矢内 弥生さん

美容室を経営。まちなか商店リニューアル助成事業補助金を活用し、暑い夏でも安心して来店してもらえるよう美容室の空調機器を更新。

外での作業ができるようになり、とても助かっています。
市長 農業を志す若い青年が、猛暑でグブアップしないように市もサポートしていきたいと考えています。利波さんが所属しているくらぶ草の会では、新規就農者も増えていると聞いていますが、そういった人の手助けになればと思っています。

利波 新規就農者は初期投資が多いですから助かります。私も今年試しに購入してみたのですが、暑いので毎日着ています。この制度は続けてもらえるとありがたいです。

市長 まちを元気あるものにするためには個店の元気が不可欠です。市内には約6,000店舗の事業所がありますが「店が老朽化して困っている」という声が多くあって、なんとかなくてはと思いました。そこで、店を魅力的にするための内装や設備導入費用の半額、最大100万円を補助する制度を作りました。矢内さんは美容室を運営されていますが、この制度をどのように使われましたか。

矢内 長年使用していたエアコンが古くなり、昨年の夏は壊れないか心配しながら使っている状態でした。そこで息子から教えてもらったこの補助金を活用し、最新のエアコンに入れ替えさせていただきました。

市長 私は、まちが元気になるためには個店が魅力的でなければならないと思っています。特に美容の世界は最先端をいってもらいたい。新しい設備を入れてみて、お店の様子は変わりましたか。

矢内 心地よい環境の中でお客様からも大変好評ですし、何よりスタッフが「今年は本当に助かる」と感謝してくれています。本当にありがたいです。最新型は省エネで電気代もずいぶん違いますし、CO2排出量も減らせます。

市長 申請手続きもできる限り簡単にしていますし、2回目、3回目の申請も可能にしていますから、多くの店舗で活用してほしいです。

資格取得でキャリアアップを目指す

市長 次に人材育成の支援についてですが、企業から「社員に資格を取らせたいが、費用が高くて困っている」という声が上がっているのを聞き、資格取得支援事業を始めました。内田さんの会社では、人材派遣の立場で活用され



うちだ めぐみ
内田 恵さん

人材派遣会社を運営。資格取得支援事業を、派遣スタッフのフォークリフト運転免許の取得などに活用。地域のスキルアップや生産性向上に貢献。



たに ひろき
利波 浩樹さん

平成18年に富山県から倉渕に移住した農業者。職場環境改善事業補助金の農業者向け特別枠を活用し、ファン付きベストを購入。高崎じまんなどに出荷。

たそうですね。

内田 はい、うちは製造業へ派遣することが多いのですが、派遣スタッフはキャリアアップしていかないと時給が上がリません。そこで、フォークリフトやクレーンなどの資格を取ってもらうために使わせていただきました。

市長 自社で資格取得制度を持ってない企業に代わって市が応援しようという狙いでしたが、人材派遣会社がスタッフのキャリア形成に活用してくれるとは素晴らしいアイデアです。実際に働く人の生活は変わりましたか。

内田 そうですね。これまで単純作業が中心だった方たちが、資格を取ることでステップアップして収入も増えます。派遣中に「給料が上がらないか」と相談を受けた際、「じゃあ勉強して資格を取ってみたら?」と提案でき、働く人の生活が少しでも豊かになるサポートができて非常に助かっています。

若者の地元定着を応援する独自の支援

市長 働く人に伸びるチャンスを与えることが大切です。一方で、若い世代への直接の支援も重要です。新卒で高崎の企業に就職してくれた若者に「ありがとう」というお礼の気持ちを伝えたいと考え、市内の会社に就職した方に10万円分の「高崎通貨」を交付する制度を作りました。高橋さんは新社会人とのことですが、この制度を受けてどうでしたか。

高橋真 私は群馬県出身で富山県の大学に進学したのですが、就職のシーズンになって地元で働きたいと思い、高崎に帰ってきました。この制度のことは知らなかったのですが、もらった時は本当にラッキーだと思ってうれしかったです。

市長 卒業後に東京などの都会へ就職してしまう人が多い中、地元に戻ってきてくれてありがたいです。交付された10万円分の高崎通貨は、何に使われたのですか。

高橋真 半分は両親のために使いました。大学時代に一人暮らしを経験して生活することの大変さを痛感したので、「今までありがとうね」という気持ちを込めました。

市長 高橋さんのように高崎に戻ってきてくれるのは一番望ましい形です。今後、新たな産業エリアを整備し、世界のトップIT企業を誘致して、高崎で育った若者が地元で就職し、結婚して子育てができる環境を作る準備を進めています。高崎は地方都市の中でも際立って「選ばれるまち」になってきていると実感しています。働く人の数もこの5年で約4,000人増えました。まちの発展は、皆さんの活力にかかっていますから、それを支える環境づくりをこれからも支援していきます。本日はありがとうございました。

一同 ありがとうございます。



補助金を活用して設置されたクーラー。工場内の作業が快適に

対談の様子を動画でご覧いただけます

